

Glocal Tenri



8

月刊 グローカル天理 Monthly Bulletin Vol.17 No.8 August 2016

天理大学 おやさと研究所 Oyasato Institute for the Study of Religion, Tenri University

CONTENTS

- ・ 巻頭言
こどもおぢばがえりに思う
／高見宇造..... 1
- ・ 天理教教理史断章 (107)
北野文書⑨「おさしづ」の写し翻刻
／安井幹夫..... 2
- ・ 『教祖伝』探究 (26)
万余から 50人
／深谷忠一..... 3
- ・ 「おふでさき」天理言語教学試論～「こと」
的世界観への未来像～ (28)
第4章 南方熊楠「萃点の思想」と「事
の学」③
／井上昭夫..... 4
- ・ 「元初まりの話」に登場する動物たち (15)
「皮つなぎの道具」としての「かめ」①
／佐藤孝則..... 5
- ・ 「おふでさき」の標榜的用法 (12)
「そうじ」について③
／深谷耕治..... 6
- ・ 「おさしづ」語句の探求 (18)
第1巻における「道」まとめ①
／澤井治郎..... 7
- ・ 新宗教のブラジル伝道 (40)
救済の多様性 生長の家④
／山田政信..... 8
- ・ 地域福祉を拓く 一新たな寄付文化の創造
一 (20)
義援金と支援金②
／渡辺一城..... 9
- ・ 遺跡からのメッセージ (14)
イギリス滞在記⑩ロンドン大学と世界の
考古学
／桑原久男..... 10
- ・ ヴァチカン便り (21)
女性助祭は実現するか
／山口英雄..... 11
- ・ 教学と現代—これからの社会と天理教 (4)
家族をめぐる天理教の教え
堀内みどり..... 12
- ・ English Summary..... 13
- ・ 『グローカル天理』200号記念特集
連載タイトル・執筆者一覧..... 14
- ・ おやさと研究所ニュース..... 15

日本ソーシャルワーク学会第33回大会に参加 (高見宇造) / 第293回研究報告会 (黄柏棋) / 「出前教学講座」申し込み受付 / 『グローカル天理』合本のご案内 / 『グローカル天理』年間購読のご案内 / 平成28年度「公開教学講座」(ご案内)

巻頭言

こどもおぢばがえりに思う

おやさと研究所長 高見宇造 Uzo Takami

今、親里は夏のこどもおぢばがえりに向けてその準備の真最中です。行事会場の設営等、帰参する子供たちの受け入れに余念がありません。今年は特に教祖130年祭の年でもあり、期日が8月5日までと一日延長されました。全国各地から一人でも多くの子供たちの参加が待たれます。

受け入れに際しては様々なスタッフのひのぎしんがありますが、私自身、ここしばらくは、「玄関係」というご用を勤めています。ご承知のようにおぢばに着くと団体、個人を問わず、行事受付をすませしてから本部玄関へ帰参報告のご挨拶に伺うことになっています。そこでは本部在籍者が出迎えをさせていただき、併せて真柱様からのおみやげをお渡し致します。「〇〇団〇〇隊、ただいま元気におぢばへ帰らせていただきました。ありがとうございます！」と子供たちが大きな声で挨拶をしてくれます。読者の皆さんもご存じでしょう。ではこれは誰に対して挨拶をするのでしょうか？ それはもちろん真柱様に申し上げているのです。実際に応対させていただくのは私たちですが、その思いは真柱様に対してです。私たちも「元気で仲良く楽しんで下さいね」と申し上げます。これが玄関係の御用です。

ところで、もう3年も前の話になりますが、忘れられない出来事がありました。この年も私は玄関係を勤めておりましたが、それは最終日、8月4日夕刻4時前のことでした。「もうすぐ今年のこどもおぢばがえりも終わるなあ」と一人感じ入っていると、一人の若いお母さんが4、5歳児の手を引き、赤ちゃんを乗せたバギーを押しながら玄関挨拶に来られました。「ようこそお帰り下さいました」と私。「たった今、東京から帰って参りました」とお母さん。間髪を入れず私は「お母さん、残念でしたね。もう行事受付は終わってし

まいましたよ」と口にしてしまいました。今から思うと大変失礼なことを申しました。ところが彼女は「いいえ、先生。私はいいいのです」と言うのです。

どうということかと伺うと、彼女は母子家庭で子育てに励んでいます。この日、午前中にパートの仕事を終えるや否や、おぢばに帰りた一心で東京駅から新幹線に飛び乗り、電車を乗り継ぎ、たった今、玄関に到着したのです。「先生、私は行事に参加できなくてもいい。それよりもここで『〇〇団〇〇隊、ただいま元気におぢばへ帰らせていただきました。ありがとうございます』と子供と一緒に真柱様にご挨拶ができればそれで嬉しいんです。確かに毎日、いろいろと苦勞の子育てです。でも、『真柱様、私たちは元気で頑張っています』という気持ちで挨拶できることが何よりも今の心の支えです」と満面の笑顔で話してくれました。「今からまた東京に戻ります。これで明日から頑張れます」とおみやげを押し戴くように受け取ると、子供の手を引き、何度も何度も振り返りながら玄関を辞されました。私はその後ろ姿を見送りながら不覚の涙をこらえることができませんでした。彼女たち家族がおぢばに「滞在」した時間は恐らく1時間もないでしょう。「こんなこどもおぢばがえりがあるのか」と思う一方で、「いや、これがこどもおぢばがえりなんだ」と思いました。親元に帰って生きる元気をいただいて、また国元に帰る。これこそがその原点だと教えられました。そのぢばへせかい一れつとこまでもこれいにはほんのこきよなるぞや(十七号8)なんどきにかいりてきてもめへへの心あるとハさらにはもうな (十一号78)と教えていただきます。さあ、この夏はどんなおぢばがえりがあるのでしょうか。今から楽しみにしたいと思います。